

日本分析化学専門学校 議事録

校 長	副校長

令和5年度 学校関係者評価委員会

1 - 10 頁

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]														
出席者		欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
		梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田喜 一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目			審 議 経 過											担当	期限
1	議題			1. 開会 2. 委員紹介 【資料①】 3. 挨拶 4. 委員会の位置づけと目的 【資料②・③・④】 5. 本校の自己評価の報告 【資料⑤・⑥】 6. 自己評価についての意見 7. その他 8. 閉会												
2	開会			事務局より開会の挨拶がなされ、令和5年度学校関係者評価委員会が開会した。												
3	委員紹介			事務局より、本委員会の委員の紹介がなされた。 →資料① 令和5年度「学校関係者評価委員会」委員リスト ・梅川雅章 委員（分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定第一課長） ・内田 敬 委員長（就職先企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長） ・大原一浩 委員（高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭） ・藤戸郁子 委員（保護者） ・長田芽生 委員（卒業生・東洋サクセス株式会社） ・石田喜一郎 委員（校長指名・大研科学産業株式会社 営業部副部長） ・重里徳太 （校長） ・尾崎信源 （副校長） ・宮道隆 （教務部長）												
4	挨拶			重里校長の代理で尾崎副校長より、本委員会開催にあたり以下の挨拶及び学校の現状報告があった。 (1) 本校の概要と近況報告 ①本校の概要と近況について 昨年度、創立40周年を迎え、10月に卒業生・在校生・保護者・近隣の方々をお招きし、11月に就職先企業様・高校の先生方をお招きし、学校内で行事を行った。 ＜次頁に続く＞												

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場：日本分析化学専門学校 2階広報室]													
出席者	欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限
4	挨拶 (前頁の続き)		②学科・コース概要と新学科設置について ・先端薬事分析学科 令和4年度より募集開始した「先端薬事分析学科」が4月より開講した。先端薬事分析学科は、漢方や生薬について中心に学び、資格でいうと登録販売者の取得を目指す学科である。 ・先端化学分析学科 昨年度末、大阪府より「先端化学分析学科」の設置認可の承認を得た。現在、学生受入れの準備中で間もなく学生募集を開始する予定である。先端化学分析学科は通信制であり、スクーリングを含む修業年限3年で専門学校卒業を目指す課程と、学びたい科目のみ履修をすることができる課程が選択できる。 ・職業実践専門課程について 本校の学科は、職業実践専門課程として認められており、このように文部科学省から認定証明書をいただいている。職業実践専門課程は、全国約2,800校の専門学校の中で、企業連携や情報公開など複数の要件を満たすことにより学科ごとに認可を受けることができる。本委員会の開催もその認定要件の一つとなっている。 ③コロナウイルスの対応について 令和4年度は、授業・実験を止めることなく、すべてのカリキュラムを実施した。行事（入学式、卒業式、学園祭、スポーツ大会、研修旅行など）については、一部の制限は出たがすべてスケジュール通りに実施することができた。 学園祭では、飲食の提供ができない制限があったにもかかわらず、近隣の小学生など多くの方に来場いただき、過去最大数の来場者となった。 企業見学会という企業様に伺い分析現場を知る郊外学習においても、企業様にご協力いただき、少人数で複数回に分け実施した。実際の現場に触れることにより、学生は得難い経験をした。 就職活動においては、オンラインでの会社説明会や面接試験などの学生の就職活動にも対応を行った。 卒業研究においては、2月にドーンセンターで発表を行った。昨年度は、保護者・企業様・高校の先生方にご来場いただき、またオンラインでも同時配信を行った。 ④令和4年度の振り返り ・学生募集状況 前年度に比べ入学制数は減少した。入試方法（奨学金制度）を見直し、現在、令和6年度生の募集を開始した。												

<次頁に続く>

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]													
出席者	欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限
4	挨拶 (前頁の続き)		・入学者について 今年度の新入生において、女性の入学生が増えた。近年、女性 の入学生は増えていたが、令和5年度生においては、女性の人数 が男性の人数を上回る結果となった。 ・入学生の出身地 令和5年度生においては、近畿圏以外の入学生が増えた。特に 大阪府以外の出身者は、全体の69%になった。本校以外の学 校においても、このような傾向があるようである。 ⑤3つのポリシー ・達成目標 関連分野への就職率100%達成。進路決定率は、97.7%で 就職者110名・進学者13名であった。資格においては、国 家資格の化学分析技能士の全員取得を目指している。受験率9 7%で、合格率は65.3%であった。その他の資格においては、 受験率・合格率ともに例年に比べ低いものであった。 ⑥中途退学者 令和4年度は、退学率が5.1%であった。過去3年の退学者数 を振り返っても人数が増加していた。 ⑦大学との違い 令和4年12月に文部科学省が発表した学校基本調査を基に大 学との違いを紹介した。大学においては、就職率74.5%、進学 率12.4%で合計しても進路決定率は86.9%であった。本校は、 進路決定率が97.7%であるので専門学校の強みが出た結果とい える。 ⑧新しい取り組み 全館 Wi-Fi の設置、電子黒板の設置・活用に加え、求人システ ムのオンライン化を行った。学生は、オンラインで求人票を見る ことができるようになり、応募もこのシステムを利用することが できる。 ⑨教育の見える化 令和3年度より、情報公開を目的として「入学から卒業まで・ 在学生リアル成長ストーリー」という学生の成長記録動画の公開 を行っていた。先日、2年間の集大成である卒業研究発表会と卒 業式を収めたファイナル・エピソードの8番目の公開をもって締 めくくった。 ＜次頁に続く＞												

日 時	令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]														
出席者	欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田喜 一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
4	挨拶 (前頁の続き)		⑩化学実験のVR化 文部科学省委託事業で専修学校における先端技術利活用実証研究として、「化学分野等における先端技術を活用した実習科目の遠隔教育モデル構築事業」に取り組んでいる。現在、中和滴定という実験はVR化を完了した。今年度は、国家資格の化学分析技能士の実技試験対策のVR化に取り組みたいと考えており、定性分析実験のVR化を検討する予定である。 ⑪外部との連携 令和4年度においては、中学生・高校生の130名に対して出張実験を実施した。特に京都橘高校においては、高校3年生の24名に4月から12月に50分・2限分の授業を18日間行った。 奈良県中学校理科教育研究会では、理科研修として中学校教諭を対象とした実験紹介を行った。												
5	委員会の位置づけと目的		事務局より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。 →資料② 「職業実践専門課程」の文部科学大臣認定について ③ 厚生労働省 専門実践教育訓練給付金制度 ④ 職業実践専門課程制度と本校学科との関係 職業実践の認定要件は、専門士と称することが認められた課程であること、企業と連携体制を取り授業科目等を教育課程として編成すること、演習・実習等を実施すること、教員に対して実務に関する研修を組織的に実施すること、学校関係者評価と情報公開を行うことなどがある。特に本委員会において皆様のご意見をいただくことは、非常に重要であると考えている。全専門学校のうち40.2%の1093校、学科数をみると3165学科が認可を受けている。分野別でみると、本校は「工業」という分野であり、51.8%が認可を受けている。都道府県別でみると東京都が学校数・学科数ともに一番多く、本校の所在地である大阪府は東京に次ぎ2番目の学校数・学科数である。認可は学科ごとに行われるが、現在、本校においては、医療医薬分析学科、化学分析学科、環境化学分析学科、健康化学分析学科、生命化学分析学科の計5学科が認可を受けている。4月に開校した先端薬事分析学科においては、令和7年に申請する予定である。この認定を受けた場合、学生は専門実践教育訓練給付金の受給申請ができ、昨年度に受給をした学生は12名、今年度は13名が受給を予定している。 ＜次頁に続く＞												

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]														
出席者		欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
		梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目			審 議 経 過											担当	期限
6	本校の自己評価の報告			事務局より、自己評価 学校関係者評価規定の説明を実施した。 →資料⑤ 令和4年度 自己評価報告書 ⑥ 令和4年度 学校関係者評価委員会議事録 内田委員長より指名を受け、事務局より専門学校の評価は外部のアンケート等も参考に教職員による評価（自己評価）をPDCAサイクルに基づき実施し、学校自らが選任した学校関係者（業界団体・企業・高等学校・保護者など）による委員会が自己評価の結果について評価を行う（学校関係者評価）ものであること。また、学校関係者は教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営の改善のための助言等を行い、この評価結果を取りまとめ公表するとともに一定レベルを担保していくものであることを説明した。本委員会では、教職員による自己評価について厳しい視点で忌憚のない意見を求めたい。 また、この評価項目は、文部科学省の「専門学校におけるが学校評価ガイドライン」に基づき策定しているという前提を説明し、令和4年度自己評価結果報告書の各項目について、事務局から昨年度との変化を中心に詳細な説明を行った。 (1) 令和4年度の重点目標 ①本校が設定する3つのポリシーの学外周知と到達目標の達成 ②授業や管理面におけるICT化への対応準備 ③新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底と適切な学校運営 (2) 向上したもの ①就職率（全学生を分母とし、進学者を含むいわば進路決定率）の向上が図られているか (3) 低下したもの ①目的・目標達成するための事業計画を定め、それに沿った経営ができているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか												
＜次頁に続く＞																

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]													
出席者	欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田喜 一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限
7	自己評価についての 意見		各委員から以下のような意見があった。 また、評価内容や点数については、適当との評価を得て、令和4年度の自己評価については、適切な実施の上での結果であるとの結論となった。 ①評価項目3-9 資格取得等に関する指導体制はあるか 【意見】資格取得を目指す上での対策は検討しなおす必要があるのではないかと。 【回答】カリキュラム上では、各科目が資格の対策になっているものがある。また、資格対策講座も実施しているが、効果が出ていない結果となっている。特に危険物取扱者の資格取得対策講座の内容としては、これまでよりも問題を解かせ、問題に慣れさせる対応をするように進めている。また、学生には計画的に資格試験に臨むようにビジネス実務Ⅰ・Ⅱの授業の中で指導している。 ②評価項目4-1 就職率（全学生を分母とし、進学者を含むいわば進路決定率）の向上が図られているか 【意見】コロナ禍の中、就職率を維持、向上されていることは素晴らしい、頼もしく思う。現場では化学や分析の技術を持った方を求めているので、活躍される場が多いと考える。就職指導も苦労があると想像するが、学生に向き合って対応いただきたい。 【回答】現在、2年生は就職活動中だが、受験企業を決める際に求人票を見るだけでは決めきれず、企業説明会の有無を確認されることが増えた。コロナ禍を経てきたこともあり、いろいろなことに慎重になっているようにも見える。学校としては、学生が安心して受験できる機会をつくるためにも、企業側にこれまで以上に働きかけ、説明会の開催してもらっている。学生も企業も互いに理解しあって、就職内定となるのがベストと思うので、学生の意欲を下げないように対応していきたい。 ③評価項目4-2 資格取得率の（全学生を分母とした）向上が図られているか 【意見】資格取得や受験率も下がったとの説明があったが、最近の学生の気質も変化してきているのか。コロナが理由に挙げられるのかはわからないが、資格取得に限らず、今までの学生との違いなどがあれば、対策をするべきではないかと。 【回答】資格取得の例として、国家資格の一つである「特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者」は、例年1年生が多数受験をする資格である。定員100名に対して、これまでは定員を超える受験希望者があった資格であったが、昨年度は受験を奨励したにもかかわらず、受験者は83名のみであった。 ＜次頁に続く＞												

<次頁に続く>

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]														
出席者	欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録	
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田喜一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和	
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限	
7	自己評価についての 意見 (前頁の続き)		④その他の意見 【意見】高卒・大卒など、各々就職することが最終目的であると思う。特に専門学校学生には、資格を修めて、その道のプロになるという意識が高く、道を究めるというイメージがある。今日話を聞くと学生は「学校が面倒をみってくれる。」と思っているのか。 【回答】毎年、意識の高い学生は一定層いるが、反対にそうでない学生がいるのも事実で、昔と比べ大きく変わった印象はない。本校の学生には、大学中退後に本校へ入学した経歴を持つ学生がいる。この数年は、リモート授業が多く授業についていけず、進路を変更したという学生が複数名出ていたが、コロナ禍の影響が大きいようにも思わない。先日、卒業生が在校生に資格取得の重要性などを話す機会があった。取得しておいた方が良い資格や、就職後は時間の制約があり、資格取得は学生のうちにする方が良いというアドバイスであった。一方で、学生が就職活動で企業様に取得すべき資格について質問を行うと、企業様は入社後に取得を奨励しているし、福利厚生で受験料も支給していると説明される。このことが、2年生の資格試験の受験低下を招くことになっているが、実際は就職後に資格を取ることは難しいと思うので、いかに1年生のうちに資格取得させるかが大切であると考えます。 【意見】資格というのは、学校で勉強してきた証「成果」であるので、実社会で役に立つ、立たないということは置いておき、学生時代に形に残した方が良く考える。就職後は、社会人になってしかわからない資格や、社会人になってから出会う資格もある。資格を取るのは苦しいが、学生時代に勉強するプロセスを学んでほしい。 【回答】今の2年生は入学後の調査で9割5分の学生が就職を希望している。それに対して、今の1年生に調査した結果、どの学科も平均して3割の学生が大学編入学を希望している。特に自分が担任をしている学科は、半数以上が大学編入学を希望しているにもかかわらず、資格取得には積極的で矛盾も感じる。資格を就職した後に使用するしないにかかわらず、資格取得は、計画的に勉強していることや学業に対する評価につながるものである。大学編入学においても面接の際に資格については着目されることも多く、学業に対するモチベーションとして評価の対象となり合格に繋がっているもので、このようなことを積極的、かつ地道に何度も伝えていくことが大切だと考えている。													
＜次頁に続く＞																

日 時		令和5年6月23日(金) 15:00～16:30 [会場: 日本分析化学専門学校 2階広報室]													
出席者	欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限
7	自己評価についての 意見（前頁の続き）		【意見】面接を行うにあたって、履歴書・成績証明書を確認するが、一番どこを見るかという成績や資格取得に着目する。過去には、成績ではなく人間性を押してきた学生もいたが、面接ではキラッと光るものを探そうとしている。そういった学生は、努力もするし、実際に資格も取得をしていた。最近では、人間性を押してくる学生は少なくなり、そうした場合、履歴書の文字がきれいであるでも良いし、笑顔がよいでも良い。成績・資格取得はプラスアルファで、次に注目するのは志望動機である。奨学金を早く返したいというガッツのある学生も少ない。学生は強みとして身に着けられるのは資格である。さらにボランティア活動であるなど、様々な経験を積んでほしい。 【意見】自分が学生の頃は、技能講習を受験しないということは考えられなかった。授業の一環であるような印象であった。また、就職試験を受けるにしても学校を信用して求人票以外に調べるということをしていなかったように思う。今はインターネットで様々な情報を簡単に手に入れることができるため、学生の考え方も変わってきているのかもしれない。 【回答】昔は、定員を超える受験希望者があり、どうして受験者を決めるかと頭を悩ませていたほどである。最近では、SNSなどを見るとマイナスイメージとなることが載っていることがある。不安となる要素を目にする機会が増えているように思う。それが、企業説明会を希望する要因かもしれない。 【意見】現在、採用業を行っているが、売り手市場になっているように思う。資格がなくても何とかかなと思っている層があるのかもしれない。 【回答】新しく導入したオンライン求人システムを利用するなど、学生は情報を得やすく、就職活動も進めやすくなったと思う。その分、目の前には多くの情報が流れてくるので、それに甘えることなく、自身の能力を示せる資格取得にもこれまで同様、取り組ませていきたい。 【意見】学生の気質は、世代としての経験なのか、コロナの影響であるのか、偶然であるのか、SNSなどでの止められない流れなのか結論は出ないと思うが、後から振り返ってみると、あの時に変わったと分かる日がくるのではないかと。すべてをひっくるめて学生の変化となったのではないかと。ICTも進んで、チャットGPTで回答が出る時代である。一昔前は、先生の言うことを聞いておけばといったことであったが、教師を問うような生徒・保護者も出てきてい ＜次頁に続く＞												

日 時		令和5年6月23日(金) 15：00～16：30 [会場：日本分析化学専門学校 2階広報室]														
出席者		欠	出	出	欠	出	出	欠	出	出				進行	議事録	記録
		梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎	重里 徳太	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目			審 議 経 過										担当	期限	
7	自己評価についての 意見（前頁の続き）			る。教員は就職も含め、プロとしていろいろな情報を得て、様々なものに抗いながらやっていかねばならないと思う。正しいかわからない情報が出回ってしまっていることが問題である。ネットの世界は正しい情報であるとは限らないし、正しい情報を見極めていかなければならない。分析化学を教えることは本分であるが、情報との関わり方ということも教えていかなければならない。学生は、チャットGPTについて話題にしているか。大学などで問題になっているチャットGPTを用いたレポート作成などはあるか。勉強することの本質が変わっているように思う。 【回答】学生は、チャットGPTを使い始めている。すでに学生から提出されたクラブに関わる資料では、チャットGPTを利用して作成したものがあつた。レポートについてチャットGPTの利用はしていないようだが、レポート作成はパソコンではなく、スマートフォンで行っている。キーボードを使えない学生が多い。記録として写真を撮ることも見かけるようになった。本校は、実験があるので手書きで授業を受けるが、新しい傾向が目立ち始めている。情報に流されない、情報の取り方、正しい情報の使い方を指導していかなければならないと考える。												
8	閉会			事務局より閉会を宣言し終了した。												
以上																